

昭和二十年八月九日の原子爆弾に依る被害状況

本学は爆心より一料以内（基礎学科教室、附属薬学専門部、風土病研究所及び本館は六〇〇米、附属医院は八〇〇米）に位せし為附属医院の鉄筋コンクリート建物は倒壊を免れたるも内部施設は殆んど全焼し、木造建築は全部倒壊焼燼し、学長及び教授十六名、助教授以下医局員八五名、職員一四〇名、学生生徒五〇七名、看護婦一〇〇名の人的損失を受けたり。

就中凄惨を極めたるは時偶々空襲警報の解除後なりし為五ヶ所の木造講堂は講議施行中にして教授学生共に其の場に白骨を列べるの悲惨事を惹起せる事なり、又極端なる困惑を来したるは事務官以下事務職員が記録帳簿と共に全滅せしにより出納関係全く不明となりたる件なり。

